

平成17年度 東海地震 県民意識調査結果の概要

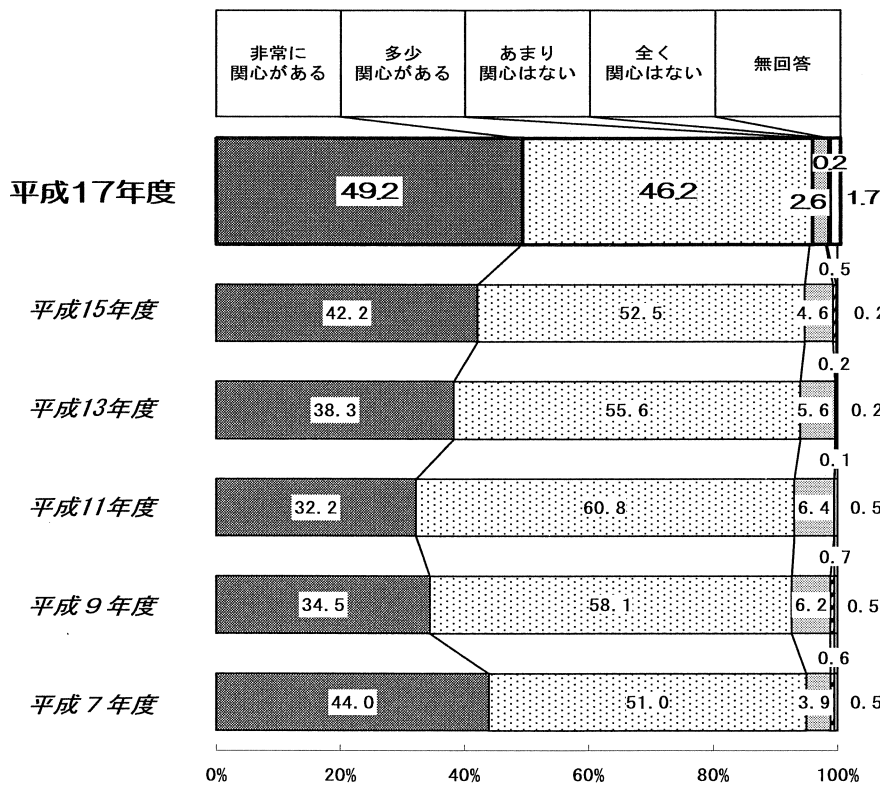
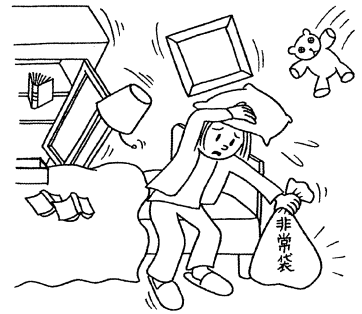
地震対策資料
No.215-2005

このリーフレットは、平成17年8月に県内にお住まいの方2,000人を対象に実施した「東海地震についての県民意識調査」結果の主要項目をまとめたものです。

Q

あなたは現在、

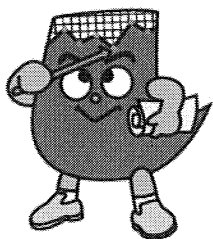
東海地震にどの程度の関心を持っていますか。



H17.3.20
福岡県西方沖の地震
H16.12.26
スマトラ沖地震
H16.10.23
新潟県中越地震

H13.5
第3次地震被害想定結果公表
H13.4.3
静岡県中部の地震

H7.1.17
阪神・淡路大震災



東海地震の切迫性が指摘されています。
地震対策をもっと身近な問題としてとらえ、
「自らの命は自ら守る」ための備えを皆で考えましょう。

- 調査区域 静岡県下34市町
- 調査対象 選挙人名簿から抽出した男女
(20歳~69歳) 2,000人
- 回収率 60.5%
- 調査方法 郵送調査法
- 調査期間 平成17年8月20日~9月2日
- 調査実施機関 (株)サーベイリサーチセンター静岡事務所

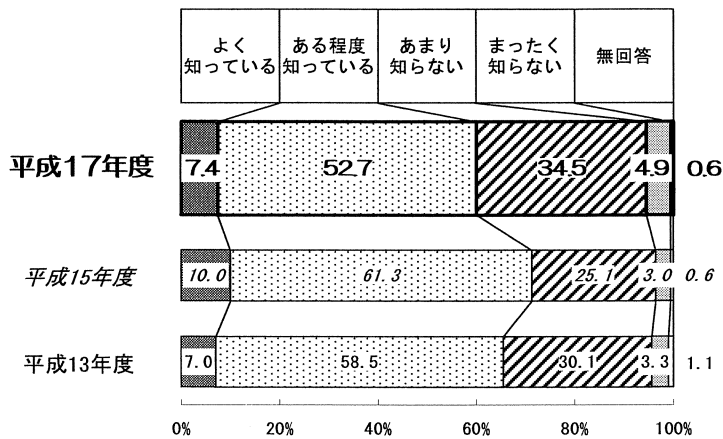
- この中の数字は、回答に御協力くださった方1,209人を100%として集計した比率です。
- 集計の都合上、四捨五入してあるので、合計100%にならない場合があります。
- 複数回答の場合は、合計が100%を超えることがあります。
- 「無回答」は設問事項について回答がなかったものをさします。

静岡県防災局防災情報室
電話 054-221-3694

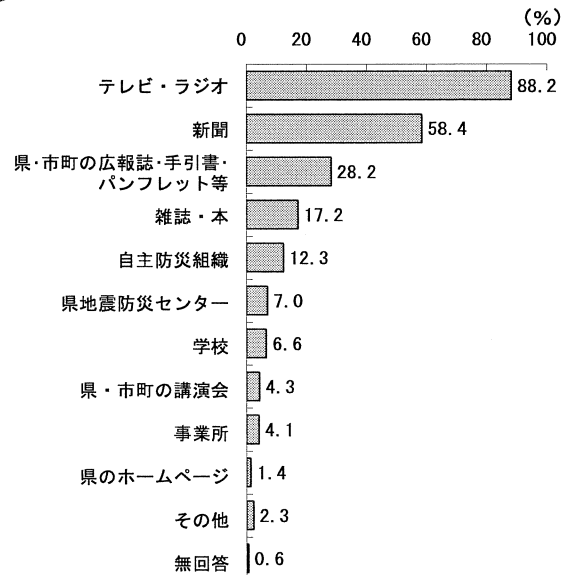
- 防災情報室メールアドレス boujou@pref.shizuoka.lg.jp
- 防災局ホームページアドレス http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/

東海地震では、近い将来、大きな地震の発生が想定されています。 東海地震の発生の仕組みを知っていますか？

Q 東海地震が発生する仕組み
(メカニズム)を知っていますか。



Q どこから知識を得ましたか。



周期的に起こる地震

日本列島の太平洋岸では、プレートの潜り込みによる地震が一定の周期で繰り返し起こっています。特にフィリピン海プレートが潜り込む東海から四国にかけての海域では、100年から150年の周期で、ほぼ同じ場所で、ほぼ同じ規模の大地震が繰り返し起こっています。

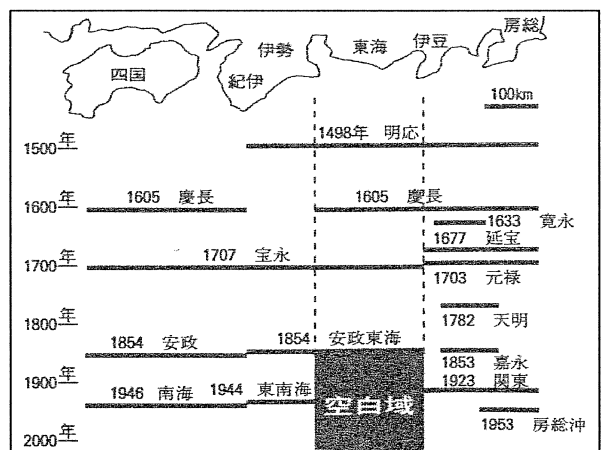
1854年の安政東海地震の後、東海地方より西側では1944年（昭和19年）の東南海地震や1946年（昭和21年）の南海地震がすでに発生し、このとき地震のエネルギーが放出され、次の地震はしばらく後と考えられています。

しかし、駿河湾から御前崎沖ではいまだ地震が発生しておらず、地震のエネルギーが蓄積されていると考えられており、地震活動の空白域とよばれ、近い将来、巨大地震の発生が予想されているのです。

東海地域で発生した大地震

- 1498年…明応地震 (M8.4)
- 1605年…慶長地震 (M7.9)
- 1707年…宝永地震 (M8.4)
- 1854年…安政東海地震 (M8.4)
- すでに151年経過
- 2005年

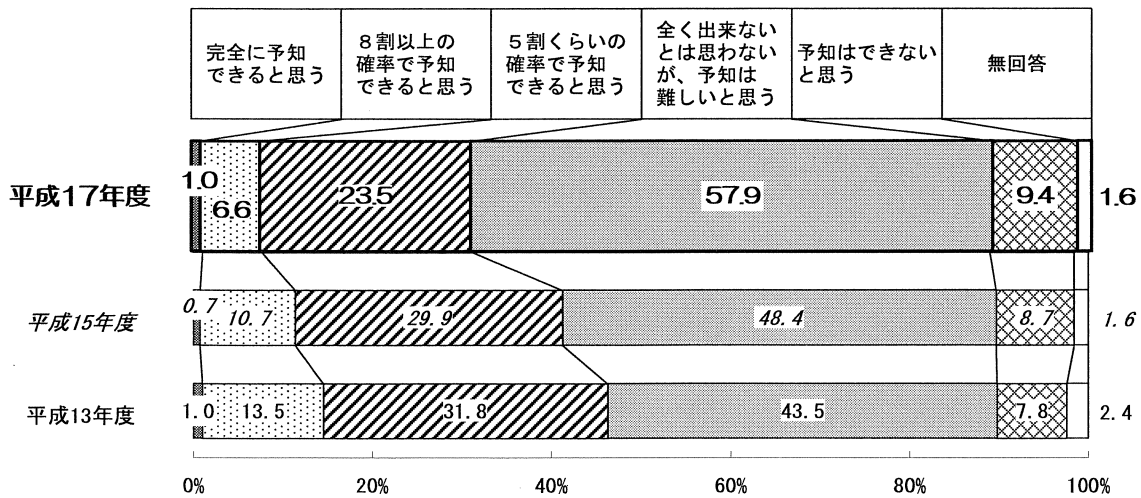
地震活動の空白域



(出典 羽鳥徳太郎に加筆)

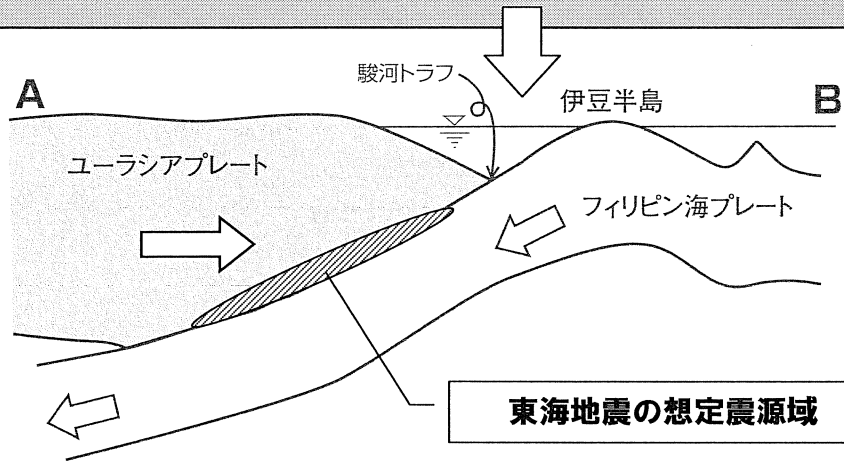
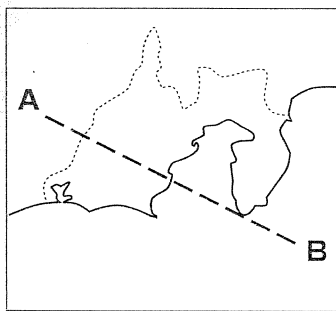


あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。

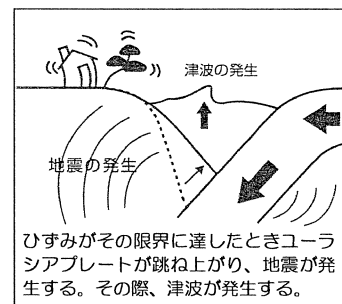
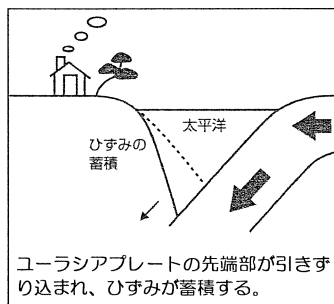
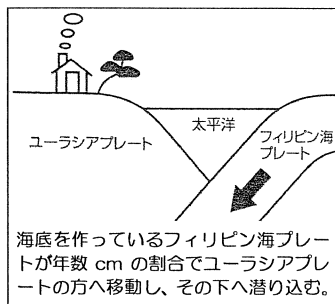


大地のひずみがたまり、破壊されると地震が起こる

地震は、地下の一部分に大きな力がはたらいて大地がひずみ、その岩石の強さでは耐えきれなくなったとき、急にその部分が破壊されて起こると考えられています。駿河トラフといわれる大地のくぼみでは、伊豆半島を乗せたフィリピン海プレートが潜り込むときに、静岡県の中中部・西部地域などを乗せたユーラシアプレートを引きずり込んでいます。そのため、この付近で大地のひずみがどんどんたまり、このひずみが限界に達して、大地が破壊されて跳ね上がったときに大地震が起こると考えられています。

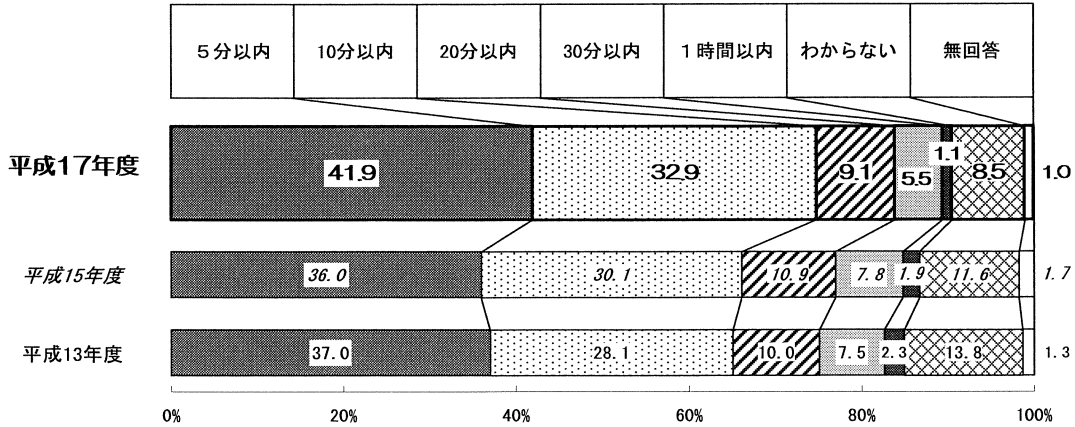


●予想される東海地震はプレート境界で起きるので「プレート境界型地震（海溝型地震）」と呼ばれています。



東海地震が発生した場合は、阪神・淡路大震災時を上回る大きな被害と津波による被害が予想されます。

Q 駿河湾内で東海地震が発生した場合、津波は、一番早いところでは地震発生後どのくらいの時間で沿岸に来ると思いますか。



東海地震が発生した場合、駿河湾や遠州灘の沿岸では、早いところで地震直後に津波が襲来します。津波の速さは海の深い所ではジェット機や新幹線並みです。

● 東海地震の被害想定と阪神・淡路大震災の被害との比較

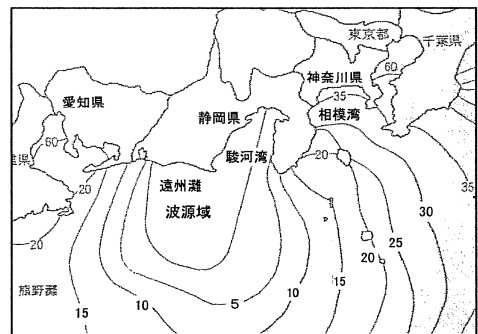
項目	阪神・淡路大震災	東海地震被害想定(予知なし)	比較
地域の人口	約 547 万人	約 374 万人 (静岡県内)	0.7 倍
マグニチュード	7.3	8 程度	約 10 倍
震度 7 の区域	約 30 km ²	約 131 km ²	4.4 倍
人的被害 (死者、重・中等傷者)	約 5 万人	約 11 万人	2.2 倍
物的被害 (建物被害 (大・中))	約 24 万 9 千棟	約 49 万棟	1.9 倍
津波被害	なし	あり (死者約 220 人)	—

※ 阪神・淡路大震災における被害の数字は消防庁災害対策本部資料より

● 津波の到達時間

波源域の広がる駿河湾内を中心に津波が発生し、駿河湾や遠州灘の沿岸では直後～5分程度、伊豆半島南部の下田あたりで10～15分程度、伊豆半島東部の伊東・熱海で30分程度で第1波が到達します。

津波は第1波、第2波、第3波と繰り返し襲ってきますが、必ずしも第1波が最大とは限らず、場所によっては第1波より第2、第3波が高い場合があります、少なくとも12時間の警戒が必要です。



想定東海地震津波の第1波予想到達時間(分)
(第1波：東海地震発生後の±5cmの水位変動)

